

信州昆虫資料館報

No.12

2014-4



今年のスケジュール

4. 19 (土) 10時オープン 山田靖昆虫画展示室入れ替えて展示します。
チョウの写真家栗田貞多男さんのフォトギャラリー開設。
多目的ホールで、「生きもの好きな仲間たち展」～5. 25
ロビー他：特設写真コーナーでチョウ、トンボ写真展。
- 4月下旬 毎年館内でヒメギフチョウ羽化を試みています。羽化の瞬間に会えるかも。村内の岩下茂迪さんは、ご自宅周辺の庭や畑・裏山を、蝶舞う里にしています。当館の蝶も食草も、岩下さんの子供たちです。
5. 11 (日) 1時～ハーモニカコンサート♪ 青木村のグループと、指導されている池田先生の演奏です。お楽しみに。
なお、終了後友の会のお花見会があります。
- 6月中 桑の葉の確保が出来ましたら、上田市飼蚕姫プロジェクトからクワコを頂き、実験的に「蚕の飼育(春蚕)」を試みる予定。無理な場合は検討会をしますので、お問い合わせください。
7. 20 (月) (祝) 祝日ですが都合により休館します。
7. 21～8. 31 「木で作った蝶や虫展」桜の木を彫り彩色された原寸の蝶20種と竹で作ったクワガタ他の展覧会。作家：蝶・加藤貴弘(安曇市出身) 竹の虫たち・安東邦英さん(青木村在住)
7. 27 (日) 13時半～恒例「ハチのお話」小川原先生の講演。ハチ毒や、刺された時の対応、ハチの性質などについてのお話です。
8. 1～9. 30 「来館者の描いた虫たち展」 館内多目的ホール
ほとんどは子供たちの作品。とらわれのない線は生き生きしています。
8. 1・2(金)(土) 恒例「夜の虫と星の観察会」
昨年までに400種の蛾が確認されました。小学生も保育園児も発見者になっておりすべて公式の資料になっています。なお、両日「蝶類保全協会」の皆さんが東京・横浜から来ます。ロビーで協会の活動や、出版物の紹介他の楽しいコーナーを開きます。
9. 未定 恒例「丸川尚子・コルナ知子ロビーコンサート」
詳細は夏以降のホームページでご確認ください。
10. 19 (日) 10時半～ 秋の十観山の散歩と観察会。お弁当ご持参ください。

☆ なお、各観察会に専門の先生や愛好家の皆さんが来られます。

昨年の行事を振り返って

4月20日：春のオープン、「蝶が出てくる映画のポスター展」。

須坂市「蝶の民俗館」館長の今井彰さん蒐集の、往年の映画を中心に30枚のポスターを展示。5月2日、今井さんのギャラリートークでは、蝶を通して見つめる自然や人間への想いを語って頂く。

6月2日：村内村松地区にある「風穴見学会」。風穴とは、養蚕の全盛時代、蚕種（卵）を貯蔵しておくため自然を利用した冷蔵施設。その多くは里山の標高の高い岩場に在り、隙間ら流れてくる冷風を貯めるように石を積み屋根で覆い、保存していた。

7月21日：小川原先生による、恒例「ハチのお話」。アレルギー症状の研究を観察して、より早い対応を実践してこられた。また、ハチ毒に対する抗体を持っている人がハチに刺されると、アナフィラキシーショックを起こすこともまれにあるなど、刺されないように、また刺された時の対応についてのお話。

8月：「星と虫の観察会」館西側に望遠鏡を設置して、土星の輪などを見る。

虫の観察は館東側の玄関先。大きな白布を吊るしライティング。夜の深まりとともに集まってくる虫たちに興じ、虫や星の好きないつもの大人たちにご指導いただく。庭の暗闇を往来している時「そうた君」が足元のコンクリートの端を見つめ「蟬が羽化し始めている！」と教えてくれ、ほぼ全員その瞬間に立ち合うことが出来た。

9月：野中健一先生による「昆虫食」の講演会。世界各地で食べられてきた虫の研究をされている野中先生が、虫がいかに人間の食文化を荷ってきたか、についてお話された。県内では今も蚕のサナギ、イナゴの煮つけなどを販売されており、皆さんに食べて頂き和やかな時間が流れた。

10月：丸川尚子さん（歌）とコルナ知子さん（ピアノ）による、恒例ロビーコンサート。今年もあたたかな歌声ピアノ曲が館内に響いた。森から鳥の声も聴こえ、みんなであうとり楽しんだ。

12月1日：当館10周年の終わりに一品持ち寄りの忘年会。お料理も沢山並び、大勢で和やかに過ごす。お手伝いの皆さん、ご参加下さった皆さんありがとうございました。

★マダラヤンマ保護研究会からのお知らせで、時節に合わせて池を巡り観察。会の活動や発表の展示でも益々研究が深まっており、地道な活動の大切さを思った。

★庭先のエノキは随分大きくなり、去年は、オオムラサキ、ヒオドシ、ゴマダラ、テング蝶が羽搏き、小さな幸せを頂いた。

「第7回鎌倉蝶話会」

10月8日・9日と鎌倉蝶話会の皆さん9名がご来館くださり、当館講義室で第7回鎌倉蝶話会が開催されました。蝶類研究家、磐瀬太郎氏（1906~1970）が1950年9月2日に立ち上げた会で、当時、鎌倉の磐瀬氏の自宅には沢山の昆虫少年や学生たちが集い、指導を受けていたようです。時には江崎悌三、田淵行男先生等も出席されており、その後磐瀬氏が東京に転居されてからも続いていたそうです。1970年5月に他界された後、鎌倉時代のメンバーだった早野育夫さん、葛谷健さん、養老孟司さん、平賀壮太さん、布施英明さん他が中心になり新鎌倉蝶話会を立ち上げられたとのこと。

今回は、幹事早野さんのご挨拶に始まり、布施さんが「クロツバメシジミの食草」、葛谷さん「1978年頃までの関東・中部地方の蝶」の講演をされました。

秋の晴天に恵まれ、館内のみならず山の散歩にご案内できたことは幸いでした。

村の温泉や松茸料理も楽しまれたことと思います。寺章夫さんが発行されているキトリナ通信No.422は、布施さんの信州昆虫館紀行になっており、温かい眼差しを頂きました。鎌倉蝶話会のさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。

（キトリナ通信・布施英明氏記事、久保快哉氏談参照）

Citrina 通信No.422 より写真転載

左から久保、平賀、養老、牧林、葛谷、早野、柳本、布施、寺各氏（敬称略）



4 月開館前のアラカルト

1 月：薄く積もった雪に光が注ぐやわらかな日、遠くの方々に当館の様子を紹介する画像を作るため、雪の昆虫資料館に上った。日本昆虫協会長野支部総会で長野へ。年に一度会う虫好きないつもの皆さんと近況を語り合う。当館設立にも多大な協力を頂き、館代表は顧問になっております。会長は現在環境保全協会の会長さんでもある茅野實さんで、事務局の栗田さんは蝶の写真家。栗田さんは本年当館発行の「浅間山麓と東信の蝶」を編纂されている。

1～2 月： 昆虫画家山田靖さんの故郷山口県岩国市へ。岩国では、山田さんの従弟にあたる西教寺ご住職の龍石さまご夫妻が、お迎えくださり滞在させて頂いた。ご子息山田継信さんは、地域の方々とかつて靖氏が自宅前に開いた昆虫画展示場の所に、昔の農機具などや昆虫画、民俗画を展示し、地域の交流を目指した「やすらぎ館」を設立された。その地域は、山合いを走る道路の両脇に田畑があり、小川の流れるのどかな場所。

絵に出てくる故郷の風景そのもので、新建築物がないだけにタイムスリップしたような周東町樋余地地区。ホテルが無いハッチョウトンボが発生する豊かさ。懐かしさ募る旧小学校で、継信さんや林さんたち地元の皆さんが、心のこもった交流会を開いてくださった。岩国や玖珂郡和木町での昆虫画展覧会でお世話になった石本直邦さん、岸村進さん、島寄こずえさんと共に参加させて頂いた。

昆虫画や地域の農村風景を長年描いてこられた山田靖さんとのご縁は、2006 年に遡る。当館顧問の安藤裕先生が持参された中国新聞に、長年書き溜めて行先の定まらぬ絵の前で写っている高齢(80 代後半)の山田翁。作品を見てきたらどうか、他に宛がなかったら当館でどうかとのことで、ともあれ一人で列車に乗った。事前に連絡してあったので、山田さん、奥様、隣町に嫁がれている娘さんが待っていてくださり、座敷に飾ってある作品などをじっくり拝見。その作品は、土にまみれながらも目の前にいる虫に惹かれ、描かずにはいられなかった人の慈愛がにじみ出ているようで、野良仕事そっちのけで虫と戯れていただろ姿が目には浮かんだ。この作品はこの地の皆さんで楽しめるよう祈りつつ、さてそろそろお暇しようと立ち上がった時、となりの小部屋に山になっているものを発見。それは虫の絵だった。湿気を帯びて下の方は引っ張れば破れる状態。思わず修正を申し出、特に酷い 30 枚を宅急便で昆虫資料館宛てに送り、急いで帰途につき、作品保護作業をした。翌年それらをお返しにあがった時、しみじみと山田翁や教育委員会の皆さんとお話したものでしたが、当時は岩国市に合併する前の玖珂郡周東町という小さな自治体で、山田昆虫画のための動きは出来ない談だった。山田靖さんは、信州昆虫資料館へ是非飾ってください」と寄贈され、こちらで額装を急ぎ、常設展示室を開設。青木村、岩国市、玖珂郡和木町で山田靖昆虫画展を開催してくださり、ほっとしているうちに山田さんご夫妻は相次いで他界された。山田さんを日本のファールと讃えた安藤先生も亡くなられ、大きな仕事を残された方々の生涯を静かに思う。今は当館で常設展示と保存に勤めており、今後各地で山田さんの作品展が展開していくよう

願うばかり。岩国展でお世話になった当時の教育長磯野さんや、その後も見守って下さっている福田市長さん、岩国行に際しご配慮を頂いた当村の北村村長さんにも心から感謝申し上げます。

2～3月：「青木村自然を守る会」、「上田地球を楽しむ会」総会に出席。当館と共催の会などを組んで頂いている皆さまで、蝶やホタルの舞う里のために活動されている。地球を楽しむ会では、野山に川にと歩き地域環境を調べておられ、ゼーベック発電の実験も重ねて、よりクリーンな発電を目指している。16日「蝶類保全協会総会」に、当館の発表枠を頂いたが、大雪で新幹線が動かず断念する。

「日本ミツバチの会」が、青木村にも出来た。3月、自分たちで箱を作って4月、庭先などで、分封を待つそう。

3月に入って3回「岩下茂迪さんの山畑」を訪ねた。毎年春先にまずは節分草が咲き、福寿草、座禅草、水芭蕉に水仙、カタクリなど次々に開く。そのうちにヒメギフチョウが舞い始める。横浜での里山里海イベントを見学。横浜は眩い都会で、現代的なビル内のホールに各地から持ち込まれたブースが賑やかに並び、自然を守ろうとする熱気に満ちていた。帰って来ると、人里離れた山の昆虫資料館はまだ雪の中。

飯田美術博物館立ち寄り。はじめて歩く飯田市は、同じ県内にありながら文化も歴史も違うことを再認識。美術博物館の現代建築の佇まい、活気ある館内や活動に、驚く。改めてゆっくり見学に行きたい。

4月：音も色もない山里を見に行くカタクリの優しいピンクが目立つ。春一番の恒例行事ヒメギフチョウ見学。風の冷たさが残る早春の小さな幸せ。岩下さんと地球を楽しむ会の方と共に当郷地区の山に登り風穴を探すも、途中雪が降り始め断念。村を一望できる山の上に黒丸城跡の祠を見つけ、思いがけずの感動。山城としては興味深い造り。

★県内外各グループや個人から書籍、昆虫雑誌、通信等々寄贈頂きました。心より感謝申し上げます。

編集後記

館長代理 野原未知

この冬の寒さや雪の多さは格別で、本当に春は来るのだろかと、雪国の人間はきっと誰もが一度や二度は頭上の曇天を仰ぐものですが、ついに春はやって来たようです。この村里がいつせいに桜色になるのも、そう遠くはないことでしょう。春、夏、秋の3シーズンは、自然の賑わいと共にあつという間に通り過ぎていきます。その瞬時を見逃すことなく発生し、子孫を残して土に還っていく個体の見事さは、息を呑む想いです。厳しい暑さ寒さ、天敵との騙しあいや生き残るノウハウ。また、その小さな体に秘められた能力や仕組み。それを研究し、さまざまな分野に応用開発していく人間も凄いです。同時に地球は人間だけのものではないというこ

とを肝に命じたいものです。10年間、多くの皆様にお世話になって参りました。日頃の往来も出来ぬ上、ご無沙汰続きに拍車がかかり、新たな眼差しを頂いている皆様にも迅速な対応が出来ずにおりますことに、深くお詫び申し上げます。11年目の今年は初心に還り、資料整理・標本保存作業を主軸にしていこうと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

(2014.4.9)

5. 資料整理

標本整理 資料整理

〒386-1601 長野県小県郡青木村大字田沢 1875-6 信州昆虫資料館

Tel.0268-37-3988 fax37-3964 email:kontyu-s@ypost.plaka.or.jp